

進路指導室から 第312号

はじめに

1月11日(月)は「成人の日」でした。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、「成人式」の多くは中止もしくは延期、あるいは規模を縮小しての実施でした。

さて、酒類の製造・販売を行っているサントリーは、主要紙に作家の伊集院 静さんによるメッセージ広告を掲載しています。今年のメッセージは、「新しい人の情熱を信じている」でした。

新成人おめでとう。

今日から大人だと言われても、そんなはずはないと、君は思うだろう。私の時もそうだった。

——大人って何だろうか？

それを考える前に、今年の新成人の君たちがいつもの年と少し違っていることを話しておこう。それは、君たちがコロナの中で新成人を迎えたことだ。

いや大変だよ。手洗い、うがい、マスク着用、大声を出さない……。コロナの対処法があり、ルールが生まれた。

君たちはよくルールを守り、今も黙々と戦っている。

なぜ自分たちだけが、なぜこんな時代に、と愚痴も言わず、嘆きもしない。

世界が君たちに感心している。私も君たちを誇りに思う。よく踏ん張ってるね。

さまざまな感染症が人類を襲って千五百年が過ぎたが、私たちは一度も彼等に敗れていない。

——なぜ敗れなかったか？

それは、私たちの祖先がひたむきに耐え、考え、知恵を出し、脳漿(のうしょう)をしぼり、懸命にベストを尽くしたからだ。そして何より、明るい未来が待っていることを信じたからだと思う。君たちにはそれらを実行するパッション、情熱が胸の中に受け継がれているんだ。

そんなに頑張っている君たちに今年もまた同じ言葉を贈ります。生きる道が目の前にあり、それが登り道と下り坂なら、登り道を選びなさい。むかい風と追い風ならむかい風に立ちなさい。困っている人に、手を差しのべる勇気を持とう。

今は、少し辛いけど、必ず笑える日はやってくる。まぶしい光が差す時が来る。それを信じて歩き続けよう。自分だけのためではなく、誰かのために！それが人間の品性だ。品格だ。コロナの中の新成人諸君、情熱を信じて胸を張れ、今は少し辛いけど、二十歳は乾杯ができる。君の顔に差すまぶしい夕陽に汗を拭いて乾杯しようじゃないか。

君たちの情熱に乾杯。

「生きる道が目の前にあり、それが登り道と下り坂なら、登り道を選びなさい。むかい風と追い風ならむかい風に立ちなさい。困っている人に、手を差しのべる勇気を持とう。」そんな人たちが多くなればと願っています。

「大学等における後期等の授業の実施状況に関する調査」について

令和2年12月23日(水)に文部科学省から、「大学等における後期等の授業の実施状況に関する調査」が発表されました。現在の大学が置かれている状況を知る手がかりになります。

■ 調査の概要

- 調査対象：9月時点において、対面授業の実施割合について半分未満と回答した大学及び高等専門学校
- 調査期間：令和2年10月16日(金)～12月18日(金)
- 調査趣旨：対象大学等の授業の実施状況や、学生の理解・納得を得るための取組状況、各大学等において行われている様々な工夫等と調査するもの

■ 調査の概要

- 調査対象校(377校※)のうち約半数(190校/50.4%)は、授業全体の半分以上を対面授業で実施。
- 残りの大学(187校/49.6%)は、対面授業の実施割合は半分未満となっているが、このうち、「ほぼ全ての学生が、授業の形態等について理解・納得している」と回答しているのは18校(9.6%)、「大多数の学生が、授業の形態等について理解・納得している」と回答しているのは140校(74.9%)。
 - ・ これらの大学では、学生本人やその家族の健康、地域社会における安全など、授業形態の検討に当たり、大学が考慮した事項に関する学生への丁寧な説明や、学長・学部長メッセージの発信等の取組を通じて、学生の理解・納得を得て授業を実施している。
 - ・ また、図書館等の学内施設の開放や、学生同士が交流できる機会の設定に努めている例、教職員によるオンライン授業の勉強会を週2回開催し、オンライン授業の質の向上に努めている例、学生からオンライ

ンで寄せられた2000件以上の相談に、担当者が丁寧に回答・対応している例など、学生に寄り添った対応に努めている例も多数見られる。

- ・ さらに、次年度の授業計画等において、対面授業の段階的な拡大を予定・検討している等の回答が自由記述に記載された大学も70校程度あり、各大学で取組が進められている。

以下は、東京大学、慶應義塾大学、そして、早稲田大学の対応策です。

□ 東京大学（授業形態：ほぼ遠隔）

後期の授業については、7月15日に理事・副学長（教育・学生支援担当）及び8月25日に教養学部長から以下の趣旨で学生へのメッセージが出されている。

- ・ Aセメスター（後期に相当）においても、引き続き感染予防対策を講じながら、教育研究活動を実施。
- ・ 今後の感染拡大については予測が困難であることなどを踏まえると、授業を対面で実施することには一定程度は抑制的に進める必要。
- ・ 学生の修学・研究活動に支障を生じさせないこと、ならびに学生の健康面での安全を確保することを第一に、各学部・研究科等の分野の特性等にも応じて、大人数の講義など一定程度はオンラインによる授業を行いながら、対面での授業を再開。
- ・ 対面実施の必要性が高いと考えられる「実験・実習」、「少人数ゼミ」などはできる限り対面授業で、実施できるよう準備。
- ・ 一方、感染防止の観点から、座席配置の工夫やアクリル板の設置等を講じても従来以上の教室が必要になることに加え、同一時間帯の入構制限や、換気やインフラ整備の必要性等から、従来と同様の規模での対面授業の実施は、現在点では困難である旨説明。

□ 慶應義塾大学（授業形態：3割対面）

新型コロナウイルス感染症が拡大する状況を踏まえて、学生、教職員、関係者の健康と安全を第一にさまざまな対策を講じており、秋学期授業においても、学生が安心して学間に打ち込める環境を整えている。原則としてオンライン授業を実施した春学期の経験からオンライン型にも反復学習や同時双方向の議論など一定の効果があることが確認されていると同時に、教室、図書館、体育館、グラウンドなどキャンパスでの多様な学びの重要性も本学の教育の根幹として示している。新型コロナウイルス感染症については、依然として先行き不透明な状況が続いており、オンライン授業を継続しながらも、一部の授業をオンキャンパス（対面）で実施することとし、オンキャンパス（対面）授業の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染防止のために必要な対策を講じる。また、キャンパスへの立ち入り、施設の利用についても、安全対策を徹底した上で、段階的に進めている。

□ 早稲田大学（授業形態：ほぼ遠隔）

- ① 「誰一人取り残さない」という理想を掲げると同時に、第1に学生の健康と生命を守り、第2に教育を提供し、第3に研究を続けるという3つの使命を果たす。
- ② 秋学期はオンライン授業を基本としながら、三密を避け、ソーシャルディスタンスを前提とした教室利用を行うことで、教室、教場での授業をある程度再開する。
- ③ 本学における対面授業、また学生同士あるいは学生と教職員が交わる機会は大学生活において欠かせないものと認識しており、学生への安全、健康を第一としながら、学生が登校できる機会を少しでも増やす方を検討している。
- ④ カリキュラム上の必要性に応じて、対面授業を実施しており、ゼミ、実験、実習等少人数の授業が対面授業の中心となる。
- ⑤ 毎週でなく月数回などであっても、あるいは授業以外であっても対面の機会を増やすよう、検討を進めている。
 - 対面授業の数は全学では多くないが、履修者数が多い対面授業（3つの理工学部は合計で約1,600人が必修の「実験」の授業に毎週出席しているが、科目数は1科目に過ぎない）もあり、学部、学生によっては登校機会が多い学生もいる。

他の大学の対応策については、文部科学省のホームページに掲載されています。

(https://www.mext.go.jp/content/20201223-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf)

終わりに

先日、部活動で必要な品物を購入するために市内に出ました。本通商店街を歩いていた時に聴こえてきたのが、「HONDORI STREET あなたも わたしも今すぐ素敵探しに行こうよヒロシマみんなの BEAUTIFUL CITY」の歌詞。広島本通商店街のテーマソングの「幸せのプレリュード」。昔からある曲です。ふと懐かしく思いました。

（文責：進路指導部 池本 邦彦）